

はじめに

平成5年度から4ヵ年計画で始まった文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立——世界と地域の共存のパラダイムを求めて」(略称：総合的地域研究)の第2年度が終了しました。新しい学問分野である地域研究を、特に東南アジアに焦点をあわせながら地域の内的な構造の解明を試みると同時に、「総合的地域研究」という枠組みの中で再検証し、地域研究を地域間の研究へ、さらには世界と地域の連関の研究へと進めようとしてきました。

総括班、6つの計画研究班、および14の公募研究班からなるこの重点領域研究は、参加研究者104人という充実した研究組織で研究活動をスタートしましたが、2年の経過とともに、公募研究班の多くは、一応の目標を達してしめくくりの時期を迎えました。公募研究に関しては、第3年度からは、新たな研究班や、再編成された研究班を迎えるとともに、これまでの研究班の研究成果の公表を支援していく予定です。

総括班を除く各研究班のこれまでの研究活動を、それぞれの研究代表者にまとめていただいたのが、この『平成6年度の活動の記録』です。計画班においては、2年次における広範な活動の展開がみられ、他方、早くも計画を終了した公募研究班の中からは、次年度に向かっての報告書作成計画が披露されています。

この重点領域研究は、上に述べたように、計画、公募を含む多くの研究班から構成されています。それぞれの研究班が、それぞれの課題をめぐる研究を遂行することが、そのまま全体計画の完成ということになります。全体のなかに自らを位置付けているということが、この共同研究の必須条件です。自分のチームに閉じ籠もることなく、他の研究班にも触手をのばされることをおすすめします。総括班は、シンポジウムや研究集会の開催によって共同討論の場を確保し、また、季刊誌『総合的地域研究』および「ニューズレター」の発行を通じてコミュニケーションの努力を続けていく予定です。

この重点領域研究の研究成果は、いずれ、まとまった形で発表することを考えておりますが、とりあえずは、各研究班ならびに研究組織メンバーのプロジェクトに関する研究成果を、随時、「成果報告書シリーズ」として総括班から刊行していくことになっています。この報告書もこのカテゴリーに含まれております。各研究班がこのシリーズを積極的に利用されることをお勧めします。

末尾になりましたが、メンバーおよび関係者各位のご支援に感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬご協力をお願いいたします。

1995年3月

文部省重点領域研究「総合的地域研究」総括班
領域代表者 坪内良博